

IT開発・運用の働き方を変えていく

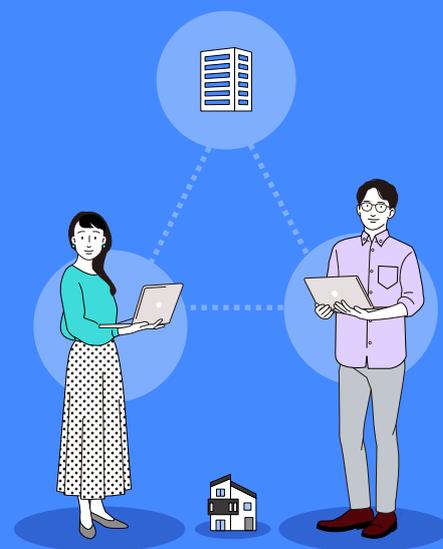
リモートITデリバリー PLAYBOOK

IBM Dynamic Deliveryのご紹介

対面で会えないからこそ、相手の話を理解しようとする。
チームの一人ひとりの作業内容が見えにくいからこそ、
誰もが自ら「見せる化」する。

ITシステムの開発・運用においても新しい働き方が
求められる今だから、仕事に向き合う考え方も、日々の行動も、
そんなふうに柔軟に変えていきたいですね。

ITデリバリーを“次世代ITサービス”へと進化させるために、
ITデベロッパー（プロジェクトに携わるエンジニアやマネージャー）の
ワークスタイルの変革について一緒に考えてみませんか。
このPLAYBOOKで、新しい働き方のヒントを見つけてください。



part 2

相手に見えない仕事の中身、自ら「見せる化」しよう

CONTENTS

- p02 まずは一人ひとりのワークスタイルに注目を
- p03 ITデベロッパーのお悩みから見えてくる、働き方を変革するためのヒントとは
Case3 タスクの見せる化、具体的にどこまで？ Case4 リモートだと一日中仕事に追われてしまう
- p07 変革のためのフレームワーク、IBM Dynamic Delivery

ITデベロッパーの「働き方」を変えていくために まずは一人ひとりのワークスタイルに注目を

多くの業種、企業でリモートワークが当たり前になってきた昨今、ITサービスを顧客企業や自社に導入（設計・開発・移行・保守運用）するITデリバリーにおいても、ワークスタイルの変革が進められています。「仕事は対面、オンサイトでやるべき」という従来の当たり前が変わりつつあります。

とはいえ、「リモートだとコミュニケーションしづらい」「やっぱり対面が一番」といった声も聞こえてきます。さまざまな悩みを解決しながらリモートでのITデリバリーに取り組むチームの様子とともに、新しい働き方について見ていきましょう。

入社以来、
研修もずっとオンラインで、
初のお客様先もリモートワーク。
わからないことが多く、
不安を感じている

ダイナミック
大那 美久

ITデベロッパー
入社1年目／独身・一人暮らし



大手生命保険会社の
大規模なシステムリニューアル
プロジェクトに参加。
リモートで開発を担当する
ことになった

デリバオサム
出利葉 理

ITデベロッパー
入社7年目／既婚・1児の父



ニューノーマル環境下の 新たな開発 / 運用スタイルの確立を目指して

企業ではデジタル・トランスフォーメーション (Digital Transformation : DX) への機運がさらに高まりを見せています。ITデベロッパーの皆さんにとって、コロナ禍でもITプロジェクトを着実かつ迅速に進めることが求められているのではないのでしょうか？ IBMは、自社の知見とノウハウをもとに次世代ITサービス実現のためのフレームワーク「IBM Dynamic Delivery」を打ち出し、システム開発のリモート化をサポートし、お客様のITデリバリーを“次世代ITサービス”へと導くお手伝いをしています。既存のシステムを活かしつつ、クラウドの適用を加速させる。そして、ハイブリッド/マルチクラウドの環境を整備し、それを土台としてAIを活用した新たな競争力と事業継続力への道筋を描く。それが、IBM Dynamic Deliveryです。

ITデベロッパーのお悩みから見えてくる 働き方を変革するためのヒントとは

case3

タスクの見せる化、 具体的にどこまで？



プロジェクトのWBS (Work Breakdown Structure) に基づき、リーダーから指示されたタスクを完了させるため、自分の中で細かい作業に分解して進めている。WBSの項目としては1行しかないものでも実際の作業は多く、忙しいことはチームに知ってもらいたい。が、どこまで共有すべきか悩ましい。ときには自分で設定した作業がうまくいかないこともあり、勉強不足が理由なようにも思えて言い出しにくい。

解決策を探ってみよう



一人ひとりの細かい作業の積み重ねがプロジェクトを進捗させます。タスクを詳細化した作業を自分で把握して見える化し、それらを積極的にチームに共有して「見せる化」しましょう。ステータスを能動的に共有する意識が大切です。これによってリーダーの負担が軽減され、チーム全体の状況がより正確に把握できるようになります。その際、ツールに頼り切るのではなく、場面に応じて電話やチャットも使い、積極的に発信しましょう。



細かいタスクも、チーム内で見せる化

やるべきタスクをすべて書き出し、そのステータスを毎日チームで確認する

と、進んでいないタスクが目につき、すぐに対策を打つことができます。実はこのやり方は、アジャイルのプラクティスのひとつです。リモートワーク環境でこうしたタスクの見せる化をサポートするのが、Trello^{*1}、Jira^{*2}といったタスク管理ツール。これらにはオンラインのボード機能があり、未着手、作業中、完了などのステータスを可視化できます。チャート生成機能を使えば、リアルタイムの進捗状況を視覚的に「見せる化」することも可能です。

*1 Trello: カード形式のタスク管理ツール <https://trello.com/ja>

*2 Jira: アジャイル開発管理ツール <https://www.atlassian.com/ja/software/jira>

case4

リモートだと一日中 仕事に追われてしまう



自宅が職場、というリモートワークに慣れてきた。最近ではコミュニケーションもスムーズに行えるようになったし、通勤から解放されたためか体力的にゆとりを感じられるのも良い。とはいえ、定時を過ぎてもメンバーとのチャットが続くことがあり、気がつくとき長時間働いている。いつでも仕事ができる環境が、いつまでも仕事をする環境になりつつある。一体、どうすればいいだろう。

解決策を探ってみよう



対応策としては、まず意識してオンとオフを切り替えましょう。ここでもやはり「見せる化」を。チームでグループチャットがある場合、仕事終わりに「本日はこれで上がります」と投稿し、退勤したことを「見せる化」します。同様に、仕事始めもチャットなどで知らせ、始業のタイミングから仕事に専念できるよう意識しましょう。また、休憩・気分転換のために、ちょっとした家事などスキマ時間の有効活用も考えてみてはどうでしょうか。ただし、マナーとして、チームには家事のため中抜けすることを伝えるのは忘れずに。



あなたは「配慮」できていますか？

当PLAYBOOKでは、私用と仕事を同時に行う「ながらワーク」よりも、きちんとチームに連絡した上で「中抜け」し、仕事は仕事、家事は家事と分けることを推奨しています。ときには、「在席中」のはずの同僚に電話したところ、何やら周囲が騒がしく、「サボっている？」などと勘ぐりたくなるようなこともあるかもしれません。そのようなときは「何か事情があるのだろう」と配慮できるように考え方をアップデートしていけると良いですね。



オンオフの切り替えルールを 意識的に取り入れよう

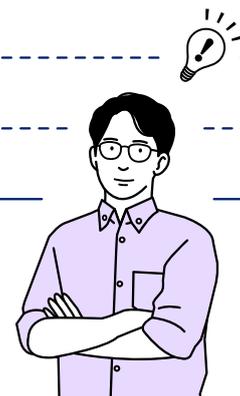
朝夕に一言書き込める「ハローグッバイチャンネル」のようなグループチャットを作っておくと、書き込むという習慣が仕事スイッチのオンオフになり、自身のステータスの見える化にも役立ちます。対面で挨拶しているようなもので構いません。「おはようございます」、「30分だけ家事してきます」、「お疲れ様でした」と気軽に投稿してみましょう。

また、通勤が無い分、意識して運動するようにしましょう。自宅にこもって作業を続けていると、何時間も集中して前屈みの姿勢になり、目や腰に負担がかかりやすいので要注意。意識的に休憩をとり、ストレッチをしたり、散歩をしたりなど、短い時間でも良いのでリフレッシュできる時間を作りましょう。

出社するときと同じ時間に起きて身支度をする、といったマイルールを決める方法もおすすめです。頭や気持ちのスイッチの切り替えをルーティン化して、ストレスのないリモートワークを。

例えばこんなルーティンを...

- 仕事を始める前にコーヒーを淹れて気持ちを切り替える
- ランチの前に少しだけストレッチや筋トレをする
- 散歩に出かけて体を動かす
- おやつのお時間にお茶を楽しむ
- 終業後にPCをシャットダウンして机の上を片付け、
仕事のものが目に入らないようにする





子育て世帯を救うリモートワークとは

臨機応変に時間を使えるリモートワークは、子育て世帯にとってメリットの多い働き方です。一方、緊急事態宣言下や託児施設の閉鎖時などに家で子守りしながらでは、会社にいるときと同じように業務に集中することは想像以上に困難です。チーム内でも家庭内でもお互いの状況を理解し、協力しながら、無理のない働き方を探っていきましょう。また、親がリモートワークでも出社でも、子どもの生活リズムは変わりません。例えば、お迎えや子どもの帰宅をきっかけにオンオフのメリハリをつけるなどして、気持ち良い働き方を！

〈臨機応変に時間を使えるリモートワークのメリット〉

- 時間や場所の制約がなくなり、参加できなかった打ち合わせにリモートで参加できるようになって、仕事の幅が広がる
- 時間に都合をつけやすいので、子どもの学校・保育園の行事に参加しやすい
- 通勤時間がなくなることで、休日に回していた家事を平日に行えるように
- 災害があって交通機関がストップしても、子どもをすぐに迎えに行ける

備忘のつもりでも、 終業後のチャットには御用心



「そうだ、明日の朝イチでAさんに例の状況を確認しよう。忘れないように今のうちにチャットを」という発想、御用心です。チャットツールの設定次第ではありますが、相手に不要な通知やプレッシャーを与えてしまう可能性も。備忘のためなら自身のリマインダーツールに登録するなどの工夫をしましょう。相手とのコミュニケーションでは、場面に応じて配慮し、自己都合を相手に押し付けていると感じられないようにしたいですね。

IT 開発・運用の働き方を変えていくために。

デジタル変革を進める際、テクノロジーの導入もさることながら、まずは企業文化とワークスタイルの変革から始めてみてはいかがでしょうか。その際、皆さんのチームでも、リモートワークのよくあるお悩みにたいする解決策やヒントを、参考にしてみてください。

変革のためのフレームワーク、IBM Dynamic Delivery

IBM が提供している Dynamic Delivery の目的は、ビジネスの継続性を支援してお客様の DX を促進することです。IT デベロッパーの皆さんがどこで働いている場合でも、各種ツールや AI による自動化・効率化によって生産性を高めながら円滑にコラボレーションし、価値創出を図っていくことを目指しています。そうした次世代 IT 開発を実現するためのアプローチとして IBM は「非対面のサービス提供」、「ネットワーク上の協働」、「クラウド上のデリバリー基盤」の3つのカテゴリで実現手段を用意して、変革を包括的にご支援します。

IBM Dynamic Delivery ケーパビリティ・モデル

メソッド、プラクティス、テクニカル基盤を統合した包括的なフレームワーク



PLAYBOOK は、Dynamic Delivery を使った次世代の IT システム開発・運用の現場作業のあり方を、IT デベロッパーの皆様にわかりやすく体感いただくためのヒント集です。

IBM サービス「Dynamic Delivery」に関する詳しい情報はこちら

ibm.com/jp-ja/services/dynamic-delivery

お問い合わせ

ibm.biz/Contact

リンク先の問い合わせフォームをご利用ください。
お問い合わせ内容欄には「Dynamic Delivery の件」とご記入をお願いします。



本資料の情報は 2021年6月時点のものです。仕様は予告なく変更される場合があります。製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはビジネス・パートナーの営業担当員にご相談ください。

本資料内容につきましては、執筆者の個人的見解に属するものであり、IBM の統一した見解を示すものではありません。この内容につきましての正確性、網羅性等を保証致しません。

IBM、IBM ロゴ、ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<https://www.ibm.com/legal/copytrade> をご覧ください。



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21
©Copyright IBM Japan, Ltd. 2021 All Rights Reserved